

## よみがえった古代のゲーム「かりうち」 対戦試合

奈文研では、調査研究の成果を活かし、平城宮跡来訪者に遺跡博物館ならではの体験を提供するための活動をおこなっています。その一つ、古代の遊び「かりうち」を現代のゲームとしてよみがえらせるプロジェクトの始動を「奈文研ニュースNo.80」でお伝えしました。「かりうち」とはサイコロの代わりに4本の棒を投げる双六に似たゲームで、2015年に奈文研の研究により盤面の実物が発見されました。

その後、「かりうち」の道具やルールの検討を重ね、ついにこの秋、2021年11月3日、朱雀門ひろばにて、「よみがえった古代のゲーム「かりうち」対戦試合」を平城宮跡管理センターとの共催、NPO平城宮跡サポートネットワークの協力で実施しました。

一般応募8チームでのトーナメント制とし、試合では、この日のために改良した折り畳み式の板紙による盤面、吉野杉を材料に使ったコマ・「かり」による「かりうち」キットを用いました。さらに、決勝戦では、盤面に出土遺物から再現した土器、木の枝を削り再現した「かり」、コマとしての小石を用い、奈良時代をよりリアルに体験いただきました。

当日は晴天に恵まれ、朱雀門ひろばには奈文研職員・NPOメンバーらが扮する“天平人”も応援にかけつけました。初めての参加チームも飲み込み早く、「おんぶ」や「どんでん返し」等の技を駆使し、時には祈りを込めて「かり」を投げ、試合運びに一喜一憂する声の上がる楽しい時間となりました。

奈文研は今後も「かりうち」をより広く皆様楽しんでいただくため、取り組みを進めてまいります。引き続きの応援をよろしく願います！

(文化遺産部 高橋 知奈津)



朱雀門ひろばの「かりうち」対戦試合の様子